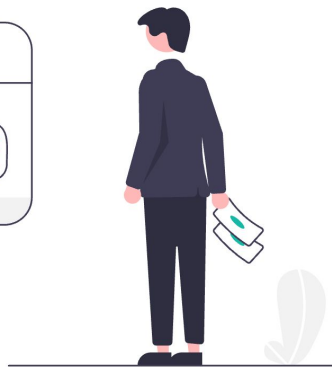
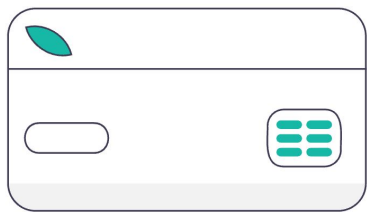




広がるキャッシュレス化の今を可視化

スマホ決済利用実態調査



iRidge 株式会社アイリッジ

はじめに

キャッシュレス決済は今や日常生活に広く浸透してきています。

なかでも「QR・バーコード決済」は、スマートフォンの普及に伴い日本のキャッシュレス化推進に大きく貢献しました。また、決済サービスの提供者も従来のインターネットサービス系や携帯キャリア系、交通系などに加え、近年では地域単位で展開される独自決済も増加しており、利用者の選択肢が広がっています。

アイリッジではQR・バーコード決済やスマートフォンで利用できる電子マネーを「スマホ決済」と定義し、その利用実態を把握するため、全国の様々な年代・性別の人々を対象に、インターネット調査を実施しました。現在決済サービスを検討されている方や、既に運用されている皆さまのお役に立てば幸いです。

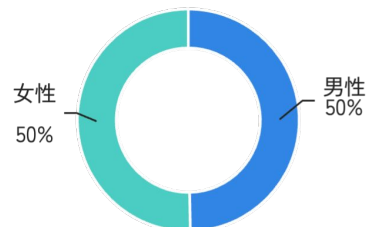
調査概要

	事前調査	本調査
調査対象	20歳～69歳の男女	スマホ決済※を利用している20歳～69歳の男女
サンプル数	8,802名	330名
調査期間	2025/1/28～1/31	2025/2/5～2/6
調査方法	インターネットリサーチ	

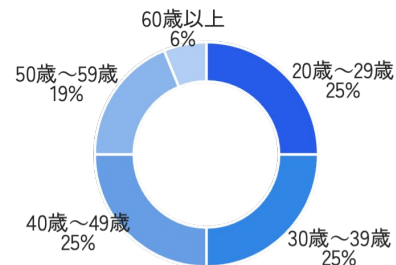
※スマホ決済＝クレジットカードやタッチ決済以外の、スマートフォンで行うQR・バーコード決済、電子マネー決済。

事前調査 (n=8,802)

性別

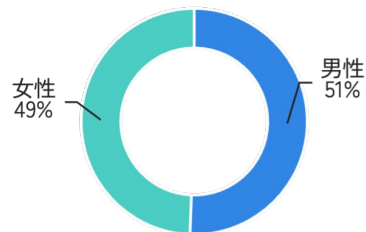


年代別

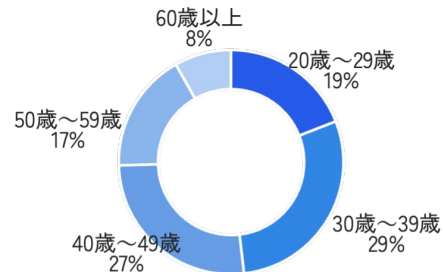


本調査 (n=330)

性別



年代別



キャッシュレス決済の分類定義

キャッシュレス決済を以下のように分類し、調査を実施。今回はスマホ決済をメインに聴取。

スマホ決済（今回の調査のメイン）

QR・バーコード 決済

- ・ PayPay
- ・ 楽天ペイ
- ・ メルペイ
- ・ d払い
- ・ auPAY
- ・ ファミペイ

など

スマホの 電子マネー

- ・ iD
- ・ 楽天Edy
- ・ 交通系電子マネー
(モバイルSuica、
モバイルPASMOなど)
- ・ QUICPay
- ・ モバイルWAON
- ・ モバイルnanaco

など

カード式の タッチ決済

- ・ Visaカードの
タッチ決済
- ・ 交通系ICカード
(カード式のSuica、
PASMOなど)
- ・ WAONカード
- ・ nanacoカード

など

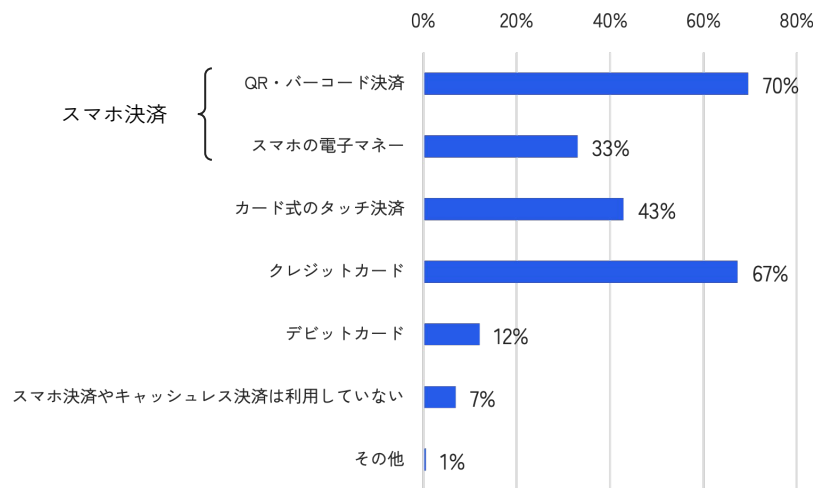
カード

- ・ クレジットカード
- ・ デビットカード

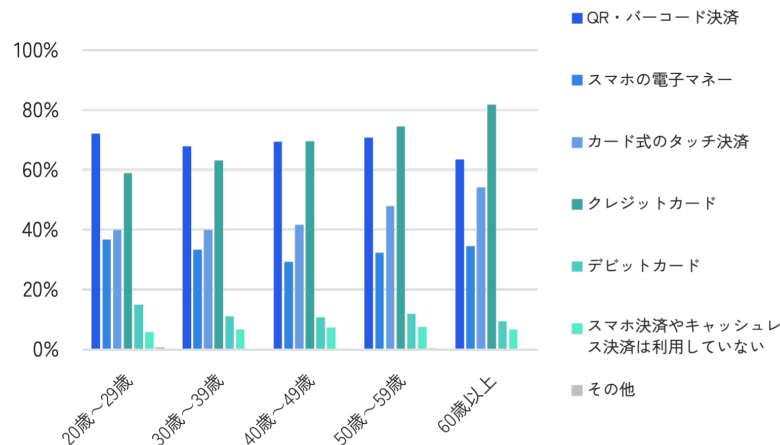
Q.あなたが利用しているスマホ決済やキャッシュレス決済をすべて選択してください

n=8,802

全体



年代別



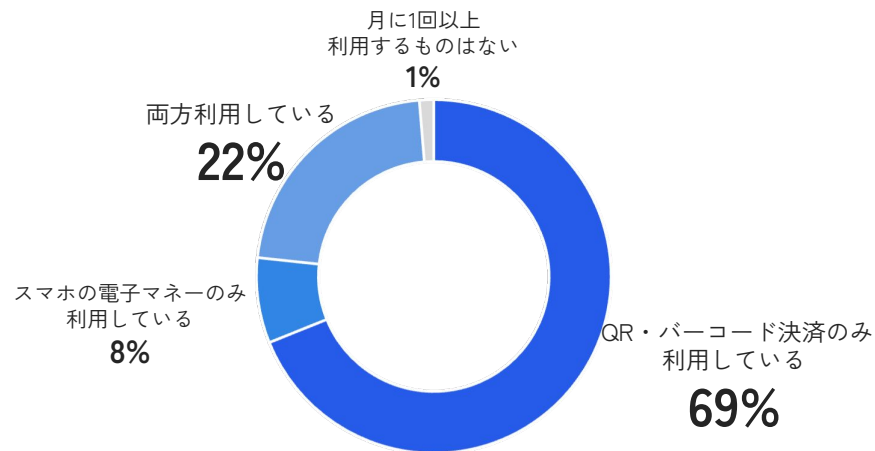
利用しているキャッシュレス決済は「QR・バーコード決済」が最多で約70%、次いで「クレジットカード」が約67%。カード式のタッチ決済やクレジットカードなど物理カードユーザーも多くいるが、**全体の約93%がスマホ決済（QR・バーコード決済＋スマホの電子マネー）を利用している。**

年代別に見ると、若年層ほどクレジットカードよりもQR・バーコード決済を利用している。

月に1回以上利用するスマホ決済

Q.あなたが月に1回以上利用する【スマホ決済の種別】についてあてはまるものを選択してください

n=309

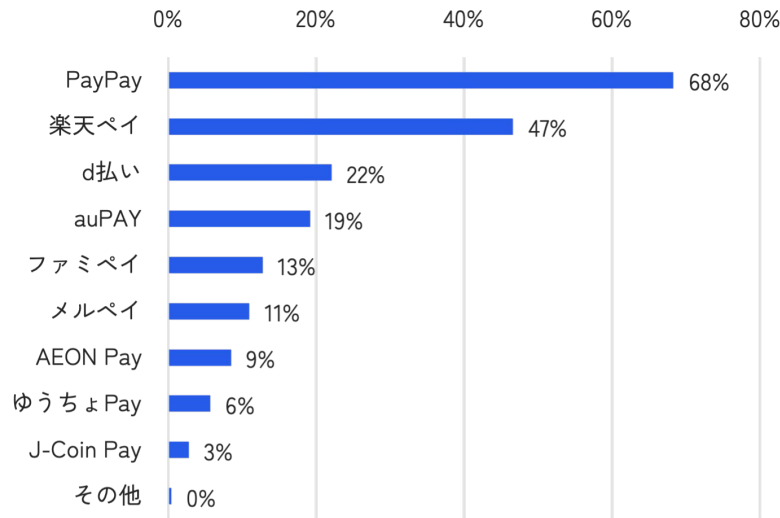


スマホ決済を利用している人が月1回以上利用する決済種別は、「QR・バーコード決済のみ」と回答した人が最多で約69%。「(iD・モバイルSuicaなどスマホで利用する)電子マネーのみ」と回答した人は約8%と少なく、「両方利用している」が約22%。電子マネーは基本的にQR・バーコード決済と併用されている。両方利用している人も含め、**QR・バーコード決済を利用している人は全体の約91%を占める。**

月に1回以上利用するQR・バーコード決済（PayPay、楽天ペイなど）

Q. あなたが月に1回以上利用している【QR・バーコード決済】をすべて選択してください

n=281



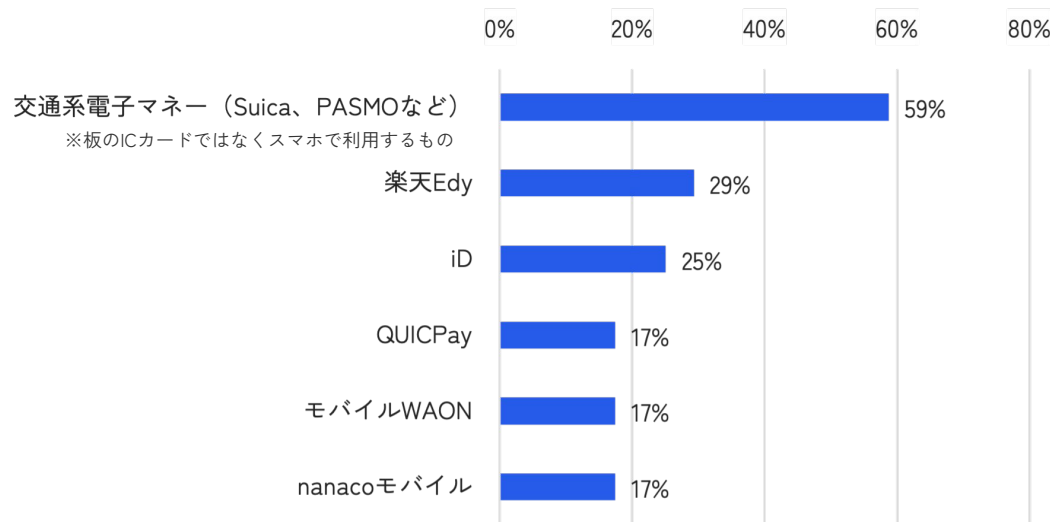
QR・バーコード決済を利用していると回答した人が月1回以上利用するサービスは、PayPayが最多で約68%。次いで楽天ペイで約47%。

回答者に対する選択数は平均1.9個であり、複数種類のQR・バーコード決済を使い分けていると推測される。

月に1回以上利用するスマホの電子マネー（iD、モバイルSuicaなど）

Q. あなたが月に1回以上利用している【スマホの電子マネー】をすべて選択してください

n=92



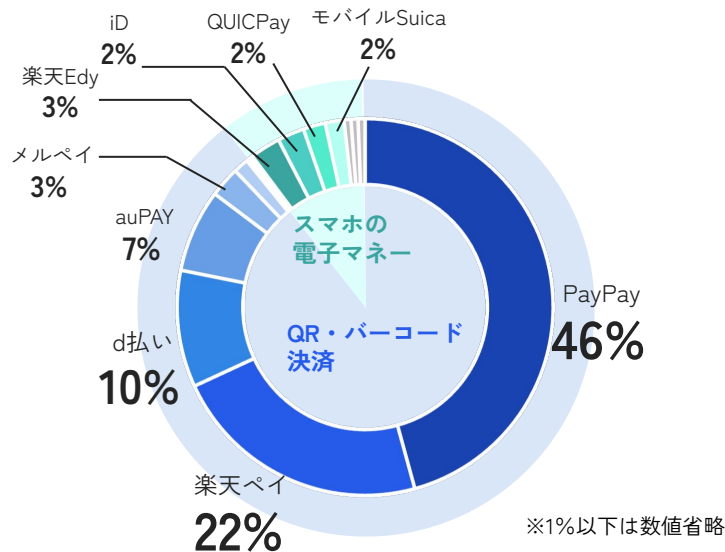
スマホの電子マネーを利用していると回答した人が月1回以上利用するサービスは、交通系（モバイルSuica、モバイルPASMOなど）が最多で約59%。次いで楽天Edyで約29%。

回答者に対する選択数は平均1.6個でありQR決済よりは複数利用率が低い。

最も利用するスマホ決済（全体）

Q. あなたが最も利用するスマホ決済は何ですか？

n=309

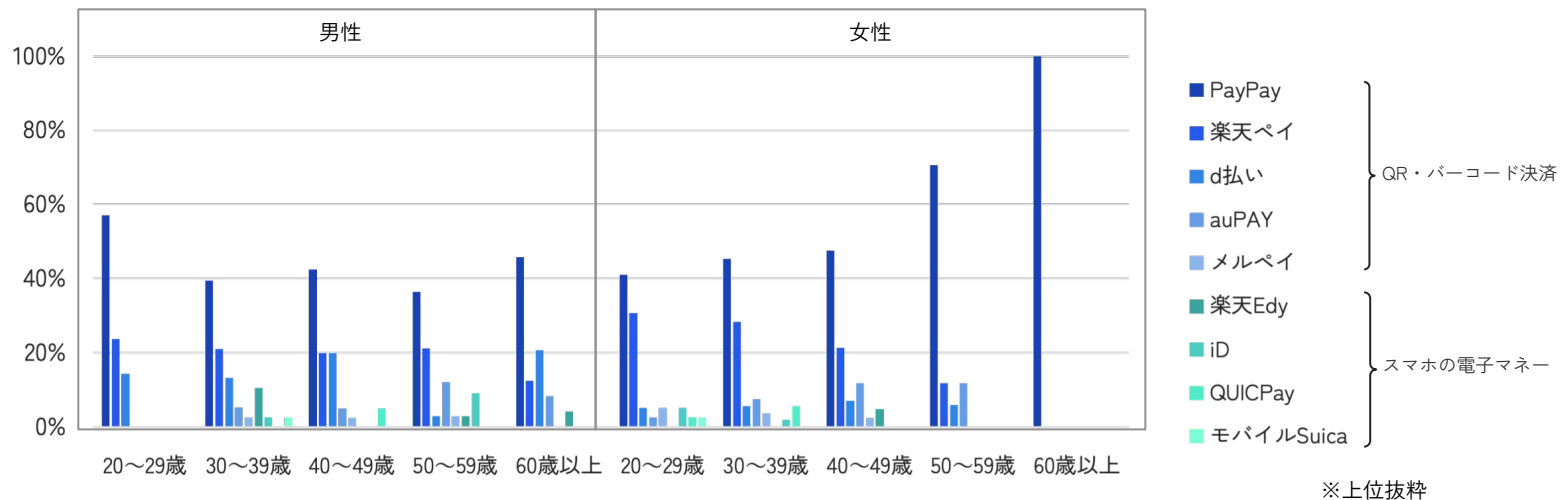


スマホ決済のなかで最も利用されているサービスはQR・バーコード決済の割合が高く、1位がPayPayで約46%・2位が楽天ペイで約22%・3位がd払いで約10%。上位3つで全体の90%以上を占め、それ以外はスマホの電子マネーも含めいずれも10%未満となった。

最も利用するスマホ決済（性年代）

Q. あなたが最も利用するスマホ決済は何ですか？

n=309



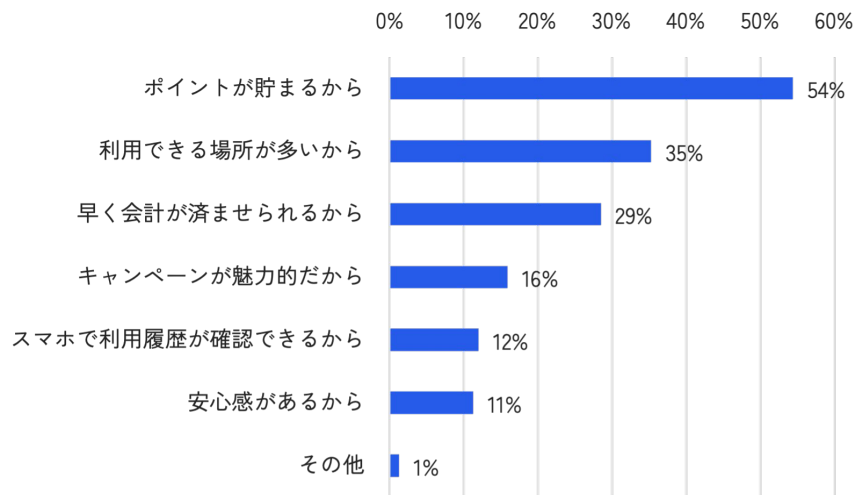
性年代別に見ると、いずれもPayPayが最多で20代男性と50代以上女性で特にPayPay比率が高い。楽天ペイは若年層ほど多い。

最も利用するスマホ決済を使う理由

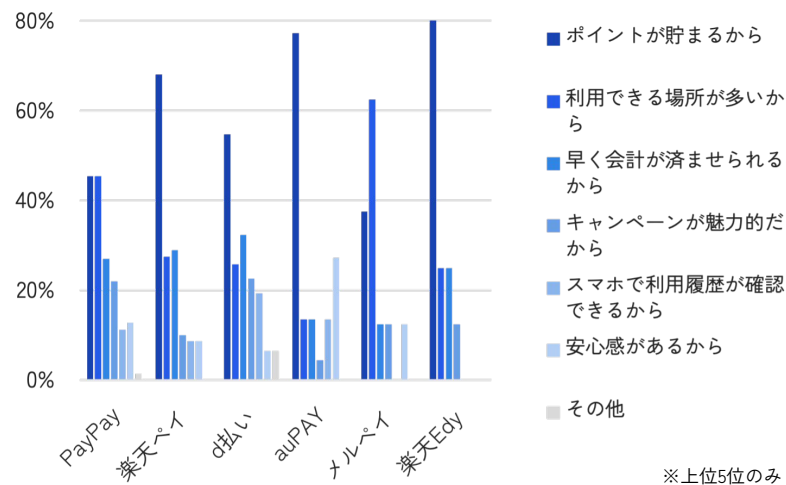
Q. 前の設問で回答した【最も利用するスマホ決済】を利用する理由を、2つまで選択してください

n=309

全体



サービス別



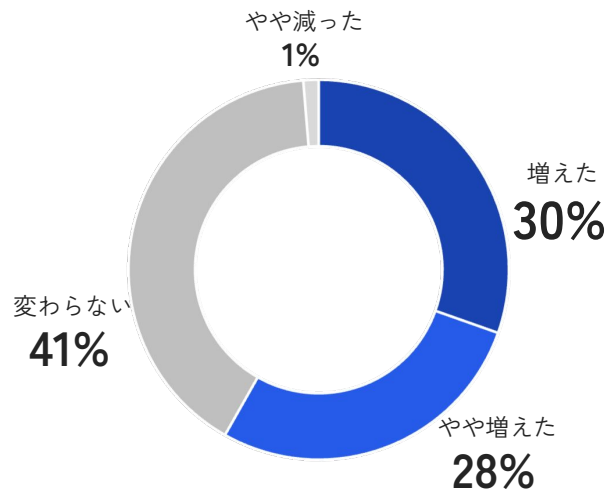
※上位5位のみ

前の設問で選択した最も利用するスマホ決済を使う理由は、「ポイントが貯まるから」が最多で約54%。
サービス別に見ると、PayPayは「ポイントが貯まるから」と「利用できる場所が多いから」が同数で上位だが、
その他のサービスは「ポイントが貯まるから」が突出している傾向。

直近のスマホ決済利用頻度

Q. あなたは1年前と比較して【スマホ決済】を利用する頻度は増えましたか？

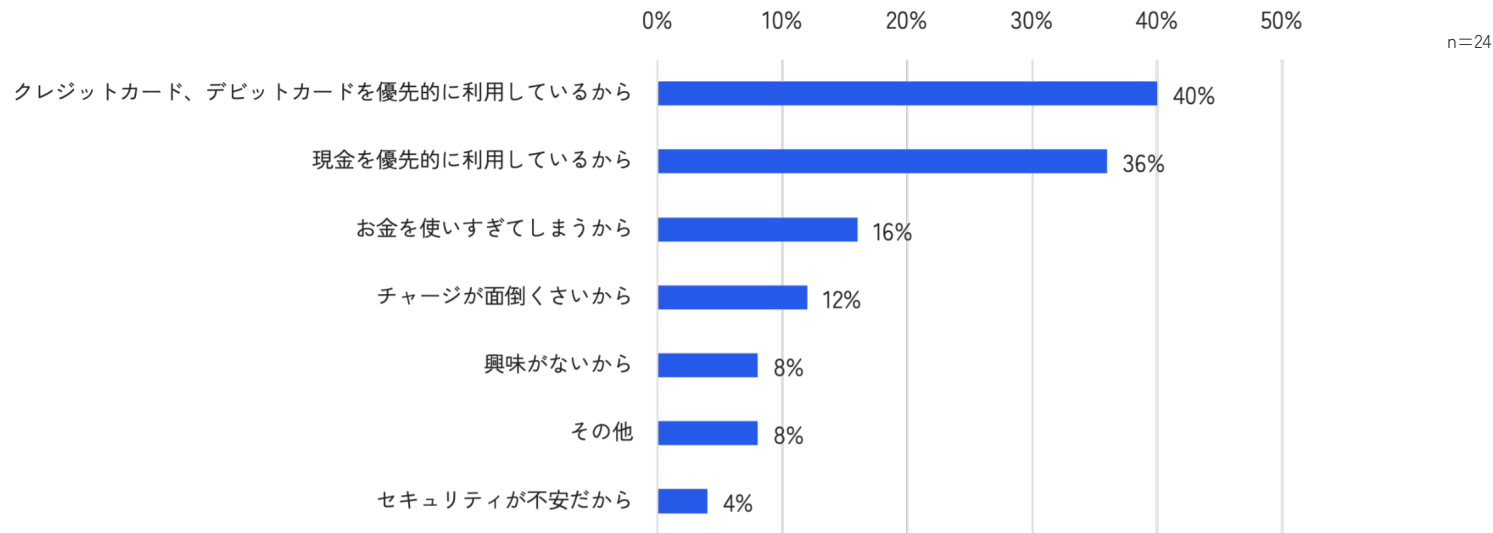
n=309



直近1年のスマホ決済利用頻度が増えた割合は全体の約58%と半数以上。利用が浸透している。

スマホ決済を利用しない理由

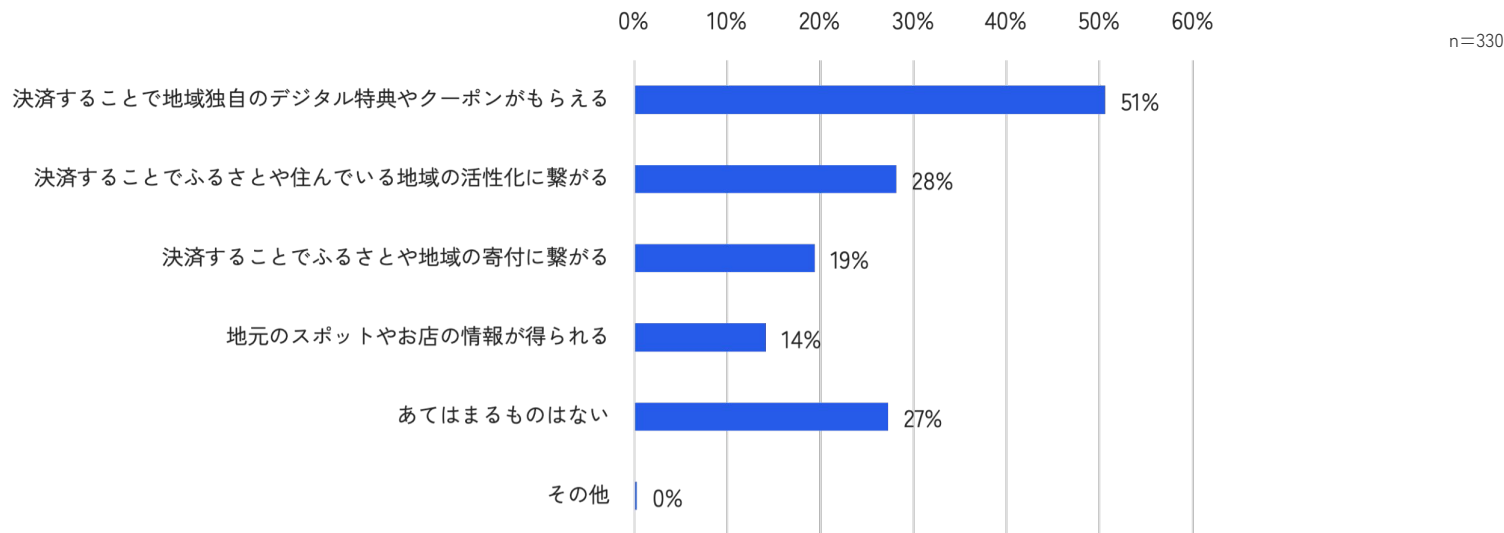
Q.あなたがスマホ決済を利用しない、もしくは利用頻度が減った理由は何ですか？
あてはまるものを2つまで選択してください



スマホ決済を月1回以上利用しない・直近1年の利用頻度が減った理由は、クレジットカードや現金を優先的に利用しているからが多い。チャージの手間やセキュリティへの懸念は少なく、個々の習慣や意識が要因と考えられる。

ポイント以外でスマホ決済にあったら良いと思うサービス（全体）

Q.あなたがスマホ決済を利用するにあたり、「ポイントがたまること以外」であつたら良いと思うサービスについて、あなたの考えに近いものを選択してください

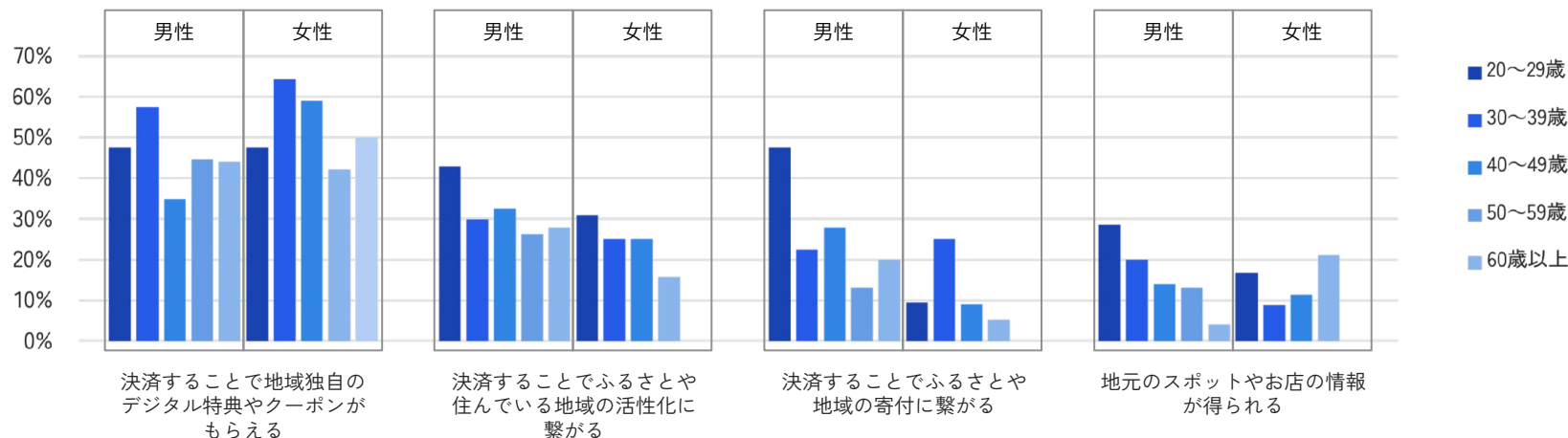


スマホ決済でポイント以外に欲しいサービスとしては、「地域独自のデジタル特典やクーポンがもらえる」が最多で約51%。ポイント同様お得なメリットへのニーズが高いが、「地域の活性化に繋がる」や「地域の寄付に繋がる」といった地域貢献も選択されている。

ポイント以外でスマホ決済にあったら良いと思うサービス（性年代別）

Q.あなたがスマホ決済を利用するにあたり、「ポイントがたまること以外」であったら良いと思うサービスについて、あなたの考えに近いものを選択してください

n=330



性年代別に見ると、利用による地域活性化や地域への寄付、地元やお店の情報については特に20代男性で多くの回答を集めた。全体的に男性のほうが地域貢献できる特典に価値を感じており、女性は特典やクーポンのような今すぐ利用できる直接的なメリットを感じるサービスに価値を感じている。

まとめ

全体の**93%**が
スマホ決済を利用している

スマホ決済を利用している人のうち
91%が**QR・バーコード決済**
を利用。また**複数種類**利用している。

スマホ決済が選ばれる理由の1位は
ポイントがたまるから

今回の調査では、キャッシュレス決済のなかでも、QR・バーコード決済やスマホの電子マネーなどいわゆる「**スマホ決済**」が広く浸透しており、なかでも**QR・バーコード決済は従来キャッシュレス決済の代表であったクレジットカードを上回っている**ことがわかりました。また、利用されているQR・バーコード決済サービスは、PayPayや楽天が大半を占めています。

スマホ決済のなかでも特定のサービスが選ばれる理由としては、**多くの店で利用できることや決済スピードなどの「利便性・タイパ」よりも、ポイントがたまる「お得感・経済的メリット」**が上回っていました。各サービスリリース当初からポイント還元キャンペーンをフックにユーザーを獲得していましたが、その後もサービスの拡張や連携などで継続的にポイントメリットを提供し、ユーザーを経済圏のなかに囲い込み続けていることが背景にあると考えられます。

今後、キャッシュレス化や各サービスの進化はより進んでいくと予想されます。そのなかで新たな決済サービスをリリースした場合、既に特定のサービスを利用している層から完全に移行させていくことは難易度が高いと言えます。ある程度他との併用での利用を想定しつつ、そのなかでもシェアを広げていくには、独自の魅力や付加価値が何かをしっかりと定義した上で、戦略に活かしていくことが重要になってくると考えられます。

アプリ成長支援のご紹介

事業を成長させ
成果を最大化



こんなお悩みありませんか？



アイリッジのアプリ成長支援なら、 そのお悩みを解決します！

アプリ事業を成長させ、得られる成果の最大化をご支援。
戦略からデータ分析までアプリビジネスの継続的な成長をサポートします。
アプリストア最適化やUXリサーチを行い改善の方針を探ります。



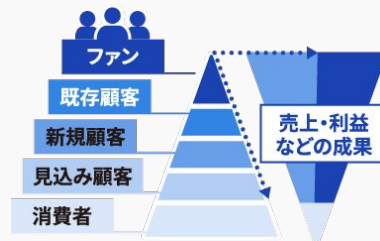
PDCAサイクルを構築



リソースを最小限に



成果を最大化



UXリサーチ

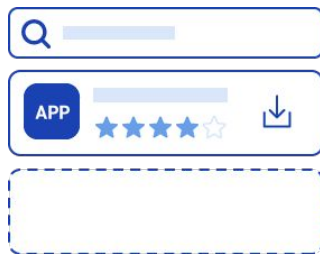
ユーザーを知り、理解を深めることで『良質なサービス体験』を実現するためにアプリの設計を見直し、改善の方針を探ります。



- ✓ より深いユーザー理解でアプリの満足度向上
- ✓ ユーザーの視点に立ったUI/UX改善

ASO（アプリストア最適化）

キーワード最適化による検索順位の改善だけではなく、ページやレビューの改善によるCV率の最適化にも重点を置いています。



- ✓ 自然流入増加で、アプリを「見つけてもらいやすく」
- ✓ ページ・レビュー改善でダウンロード率向上

アプリ成長支援

アプリ事業のビジネス企画から、リリース後のマーケティング支援やデータ分析まで、課題に合わせ様々な活動をプロがサポートします。



- ✓ アプリ事業を成功に導くトータル支援
- ✓ 施策最適化でアプリ事業をさらに成長
- ✓ ユーザーの声をもとに、UI/UXを最適化

お気軽にお問い合わせください



アプリ成長支援

資料ダウンロード

お問い合わせ



株式会社アイリッジ

APPBOXサービスサイト

<https://iridge.jp/service/appbox/>

アプリ成長支援サービスサイト

https://iridge.jp/service/app_growth/

東京都港区麻布台 1 - 11 - 9 B P R プレイス神谷町 10 F

<https://iridge.jp/>